

元反戦自衛官、小西誠さん講演会
「対中包囲網の最前線
自衛隊の南西諸島の軍事拡大を問う」
集会報告
松本朗

3月14日、イーブルなごや(名古屋市女性会館)ホールで「対中包囲網の最前線 自衛隊の南西諸島の軍事拡大を問う・小西誠さん講演会」を行いました。主催は不戦へのネットワークで、あいち沖縄会議と東海民衆センターが協力団体となってくれました。集会には会場参加者とZOOM参加者を合わせて70名が参加しました。

最初に不戦へのネットワークの代表である飯島滋明さんから主催者挨拶がありました。飯島さんは敵基地攻撃能力を持つこと自体が相手からの攻撃対象になってしまう危険性を述べ、また石垣島では、攻撃されても住民避難は自衛隊の任務ではないことについて批判し、国民を守るための自衛隊ではないことを指摘しました。今日の講演会ではそれらのことを詳しくしてくれたいと思いますと述べ、あいさつとしました。

ミサイル基地。弾薬庫の建設

続いて小西さんの講演が「要塞化される琉球弧—対中国の日米共同『島嶼戦争』—ミサイル戦争の実態」と題して行われ、1時間半ほどお話されました。小西さんはまず、琉球弧全域への適地攻撃のためのミサイル基地化と要塞化の計画が与那国島、石垣島、宮古島、奄美大島、馬毛島(種子島)で進められていることと、沖縄本島、九州—佐世保でもミサイル基地の新配備と自衛隊員増強態勢が進んでいることを詳しくのべました。特に宮古島では住民居住区である保良地区にミサイル弾薬庫の建設を開始し、また千代田地区には活断層の真上に宮古島駐屯地や弾薬庫の建設を住民の反対を押し切って強行したこと、さらには沖縄本島の自衛隊増強配備と九州佐世保における水陸機動団(日本型海兵隊)の新編成とオスプレイ17機の導入について明らかにしました。

また、キャンプ・シュワブ、ハンセン等の米軍基地・射撃場・射爆場などすべての米軍基地が日米共同使用になったことを明らかにし、巡航ミサイル、超高速滑空弾、スタンドオフミサイル、イーグリスアショアなどのミサイル戦争態勢は事実上の適地攻撃能力を与えるものであり琉球弧が戦場と化してしまうと述べました。

危険な中国への軍事挑発
2013年の大綱での「動的防衛力から統合機動防衛力」への構



想についても詳しく述べました。それは統合衛生という戦時治療政策(2021年開設の入間基地病院=野戦病院づくり)と座間の在日米軍司令部の廃止、そして「陸上自衛隊司令部・日米共同部」新設による日米共同作戦態勢の強化であるとし、また昨年10月の読売新聞で陸上自衛隊14万人を動員した史上最大の島嶼演習が検討されていることが報道されたことについても詳しく述べました。

そして政府の言う「島嶼防衛戦」とは日米による大規模な対中国戦争態勢(琉球列島へのミサイル配備と海峡封鎖)であることを詳しく解説し、日米安保体制下の集団的自衛権が行使されればアメリカとのさらなる一体化で対中国戦略のもと地理的限定なしのグローバル軍事強国へ化す事になると批判しました。

沖縄戦をくりかえすな!

琉球弧の日米一体となった軍事基地化は中国への戦争挑発であり、一触即発の戦争危機に突入すること、自衛隊の研究文書のすべてが戦争になれば「住民避難は困難」と結論づけていることから、もし島嶼戦争がおきれば本土を巻き込むアジア太平洋戦争に拡大し、琉球弧の島々が「一木一草」も生えない焦土と化してしまう。再び沖縄戦になるようなことは起こしてはならないと述べて講演を終えた。

自衛隊の内部問題

休憩をはさんで「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」の清水早子さん、「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」会員で前西之表市議会議員の和田香穂里さんからの2本のメッセージが紹介されました。和田さんはZOOMで自宅から集会参加者に向けてメッセージを読み上げ、連帯を訴えました。

後半では集会参加者との質疑応答と小西さんからの補足がありました。小西さんは「自衛官人権ホットライン」を開設し自衛隊内のいじめや人権侵害の相談にに応じていたが最近大きな変化があったと述べ、以前なら下の兵士が上官からいじめやパワハラ・暴力などの人権侵害があったが最近では中間の幹部自衛官が高級の幹部から人権侵害が行われ、相談が増えている

